

古里再建へ支援続ける

AMDA 調整員 元持さん(岩手・大槌 出身)会見

東日本大震災で甚大な被害を受けた若手県大槌町の出身で、国際医療ボランティア・AMDA(菅波茂代表)調整員の元持幸子さん(36)＝仙台市在住＝が9日、岡山市北区伊福町のAMDA本部で会見し、古里での支援活動や復旧状況などを説明し「今後も支援を

続け、町の再建を果たしたい」と意欲を語った。

大槌町は震災と津波で700人以上が死亡し、町役場も流されるなど大きな被害を受けた。思い出深い町並みや知人を失った元持さんは「故郷のために力を尽くしたい」と震災後、AMDAの嘱託職員となり、3月19日に現地入り。物資のニーズ調査や被災者への配給に携わっている。

会見では「地元出身者ということで被災者の信頼が得やすく、効率的な支援が行えた」と述べ、震災から約3カ月が経過し、仮設住宅建設やライフラインの復旧が進むなど「着実に復興に向かってい

る」と報告。「生活を取り戻そうとする被災者の力の高まりを感じる。これからも力になりたい」と話した。AMDAはこれまで

に149人の医師や看護師、調整員を現地に派遣している。

(船越元洋)



被災地の現状について説明する元持さん